

**初夏を上げるクリンソウ
満開を迎えまつりに多くの人が出**

6月22日、上里にある町民の森自然公園内でクリンソウまつりが行われました。今年は、春先から暖かい日が続いたことで少し開花が早まり、予定を1週間早めの開催となりました。

ホテル前の公園の遊歩道一帯には、ピンクのきれいな花を咲かせたクリンソウが満開を迎え、町内や遠方からこの日を楽しみに訪れた人たちは、木漏れ陽の差す森の中で、のんびりとクリンソウを眺めたり記念写真を撮っていました。

まつり会場入口では記念品のプレゼントやミニ屋台も出され、クリンソウまつりは3年目を迎え、津別の夏の訪れを上げるイベントとしてすっかり定着しました。



**高校生による農業体験
種いもの植え付けに挑戦！**

津別高校の1年生53人による農業体験学習が、5月26日高台の農家堂藤勝さんの畑で行われました。3年目となる今年、種イモの植え付けを体験。クラスごとに種イモの切り方を堂藤さんから習った後、足元が汚れないよう靴に袋をかぶせ交代で畑の中へ。植え方の指導を受けながら、生徒たちは自分で切った種イモを30センチ間隔で畝に沿っていねいに植えていました。

今回植えた種イモは澱粉加工される品種



で、秋には別の畑で男爵イモの収穫体験を行う予定です。生徒たちは初めての体験とあつて楽しげに作業を行いました。

**トランポリン少年団とソフトテニス少年団
7人が全国大会へ出場！**

5月26日、トランポリン少年団とソフトテニス少年団が全道大会の成績報告と全国大会に向けての意気込みを伝えるに訪れました。

トランポリン少年団は全道大会では2位や4位などの好成績を納め全国大会への出場権を獲得。報告に訪れた選手達は「全道では満足いく演技ができなかったので全国大会では、納得できる演技がしたい」と話していました。

ソフトテニスの佐藤君と河本君は全道大会で優勝し、全国大会へ出場を決めた。「優勝できてうれしい」と最高の結果に喜んでいました。佐藤町長は「素晴らしい。両少年団ともケガに気をつけて満足のいくプレーをしてきてください」と述べました。



ソフトテニス少年団（左）とトランポリン少年団（右）

ttownics

まちのわだい

**地域にあかりを灯す
ほくでんが7基の水銀灯を寄贈**

6月2日、ほくでん北見支店の吉本支店長が町長室を訪れ、水銀灯7基の寄贈をうけました。

この活動は平成12年から続けられているもので、津別町へは4回目となり、計22基を寄贈していただきました。

この水銀灯は高さ、場所を問わずどこでも設置可能なもので「最近犯罪が多く、電気の明るさで少しでも防犯に協力できれば」と話してくれました。



し佐藤町長は「ありがたいです。各自治会とも設置場所を検討して有効に利用させていただきます」と感謝の言葉を述べました。

5月30日、中央公民館駐車場で建設業協会と建設業振興会による夜間防犯パトライト点灯運動の出陣式が行われました。この活動は、空き巣対策などの防犯活動として2年前から行われ、地域の犯罪防止に大きな貢献を果たしています。今年も6月から10月末まで毎週日曜日の午後9時から約1時間、町内10カ所で赤色灯を点灯し地域の安全を見守ります。出陣式で津別警察官駐在所の守山所長は「最近犯罪が悪質化しているので、安全安心のまちづくりとして、この活動に期待しています」と激励の言葉をかけていました。

**夜間パトライト運動始まる
不審者などから地域を守る**



**永年の防火管理に貢献
渡邊さん、中川さんに感謝状**

5月30日、防火管理者連絡協会の元役員渡邊勝年さんと中川敏夫さんに佐藤町長より感謝状が贈呈されました。これは永きにわたり防火管理体制の確立及び火災の未然防止に尽力し、消防行政の推進に貢献したことにより贈られたものです。



渡邊さんは昭和51年から今年の4月までの約31年間、中川さんは昭和59年から24年間防火管理に勤められました。これに佐藤町長は「長い間ごろうさまでした。これからも防火活動への協力をよろしくお願います」と町への安全協力を求めました。

**打ち上げ花火に多くの善意
38トンの資源物を回収**



6月14日、津別高校の生徒会ボランティア局、野球部の生徒60人とPTA、先生20人が参加して、学校祭のための資金にしようとして廃品回収が行われました。

この日は朝から肌寒い一日でしたが、午前8時30分の集合時間にはもうトラック2台分の新聞などが積まれていました。出発前に先生から説明を受け、8班に分かれてトラックや親の車に分乗して回収に出発。途中、小雨が降るなかで住宅や商店の前に出された新聞や雑誌、牛乳パックなどを町の人たちと挨拶を交わしながら次々とトラックに積み込んでいました。

戦没者を慰霊し、平和への願いを込めた「殉公者追悼式」が、6月15日、幸町の平和の碑広場において行われました。式典には、遺族や関係者80人が参列し、黙とうと国家斉唱の後、式典委員長である佐藤多一町長より「大戦から学んだ尊い教訓を生かし、世界平和のため日本が積極的に役割を果たすことが皆様に報いることです」と式辞が述べられました。北海道知事や北海道連合遺族会会長らによる慰霊の辞が述べられた後、参列者によって175柱の殉公者に献花が行われ、平和の尊さを思い静かに祈りを捧げていました。



**殉公者追悼式に80人が参列
平和の尊さを思い、祈りを捧げる**